ラオス・ビエンチャン
現地渡航レポート

作成者
矢場　春南
（救急救命士）

ボランティアレスキュー隊へのヒアリング

はじめに

　2025年2月上旬、私たちはEMS専門家としてラオスの首都ビエンチャンを訪れ、主にボランティアレスキュー隊とのヒアリングを目的に現地調査を行いました。

　今回の調査では、ボランティアレスキュー1623、1624、1625、1628、1630、Phokaokhuay Rescue、Sathatham Rescue、Vientiane Rescue and Relief Unitを訪問し、各チームのマネージャーを中心に、住民参加型EMSの課題を抽出するため、共通の質問を実施しヒアリングを行いました。

＊ヒアリング内容および回答

質問項目	該当チーム	主な回答内容
他チームとの交流状況と課題	1623, 1625, 1628, 1630, Phokhaokhuay, Sathatham, Vientiane RRU	SAFER終了後、他チームとの交流減少・出動調整不足が課題である。CCC（指令センター）稼働停止も影響が大きい。
CCC（指令センター）やリーダー不在に対する意見	1623, 1625, 1628, 1630	指令本部の必要性を認識。 CCC再稼働や政府による統括が望まれる。
モチベーションや継続理由	全チーム	人助けや地域貢献、家族や親族を交通事故で失った影響、家族に誘われた、政府関係への就職に有利などが動機。



チーム：Phokhaokhuay



チーム：1625

＊各チームに関する個別の課題や意見

チーム名	個別の課題・意見
1623	SAFER中の交流を高く評価。病院が旗振りが難しい、レスキュー主体の集まる場所が必要である。
1625	無線のない隊（番号が割り振られていない隊）への対応が課題である。
1628	自立型資金運営を志向。救急救命講習依頼が多く対応に困ることもある。
1630	資金・人員不足深刻。個人の車を活用した搬送も発生している。
Phokhaokhuay	孤児支援と連携し人材を確保。責任者自宅で活動。資器材整備が急務。
Sathatham	水難救助が得意なため、他の隊と連携して活動することがある。 1625と出動調整範囲が重なるため課題である。
Vientiane RRU	寄附金で活動し、拠点拡大を計画している。 教育活動や研修に積極的なチーム。

＊初めてヒヤリングを行ったチーム



Sathatham



Vientiane RRU



Phokhaokhuay

最後に

　今回の調査では、各チームの特色や共通する課題を明らかにすることができました。
また、指令センター（CCC）は単に指令を発する役割にとどまらず、各チームが交流し、ボランティア救急隊をつなぐ架け橋としての機能を果たしていることも確認されました。一方で、指令センター（CCC）を稼働させるには多額の資金が必要であり、資金調達の方法はチームごとに大きく異な

り、その格差も課題となっています。政府からの援助がなく資源の乏しいラオスにおいて、これらの課題をどのように解決していくかを追求していく必要があります。

　次回の2025年8月渡航では、タイを訪問し、ラオス・タイ・日本の三か国による交流を予定しています。それぞれが抱える課題について意見を交わし、解決策を模索してまいりますので、ぜひご期待ください。